



【小手島（おてしま）】面積：0.53km<sup>2</sup> 周囲：3.8km  
 最高点：95.1m 人口：39人（H25）  
 丸亀港から小手島港まで約45分（復路は1時間45分）片道700円  
 一日片道3便ですが曜日と季節によって時刻に変更があるのと上り・下りでフェリーの運航が変わりますので注意が必要  
 塩飽諸島の中で最小の小手島は、江戸時代中期に牛の放牧場として使われ、明治以降に人が移り住んできました。島の中を歩くと島民より多いニャー以外に枯れ木アートなど個性的な住民オリジナルアートが目に入ります。島の自然と調和して独特な空間が堪能できます。港では、全国的に「タコ漁」が減る中、「たこなわ漁」という縄に150個ほどのタコ壺をつけ、漁場に投げ込むスタイルの漁が盛んにおこなわれております。春には、一本の桃の木から紅白の花を咲かせる『源平モモ』を島の目玉にしようと徐々に数を増やしております。

## 【小手島 到達ピーク90m 山行記録】

4月19日、日曜日。天気、曇り後時々雨。

丸亀港発11時10分発の船に乗って塩飽諸島の小手島へ行きました。

港の右に目指す山が見えます。中腹には神社が建っているのがわかります。

舗装道を進み、12時10分、

カーブの所から地理院地図に載っている道路に入りました。

コンクリート道ですが、急登で、濡れていて一部コケもあり、滑りやすい道です。

神社へと続く舗装道を横切り、更に登りました。

途中に民家がありました。

最高所に小手島配水池の建物がありました。



ここで、道路は終わっていて、右に樹林帯の中にトラバース気味に踏み跡が続いています。

それを辿っていきました。

途中、GPSを見ると、ピーク(95.1m)は右上の方に表示しています。

斜面を登り、藪に突入しました。

しかし、すぐにイバラ帯があります。

なんとか、それを過ぎると今度は背丈以上の青笹帯が果てしなく続きます。

やむなく、敗退を決め、別のルートを探すことにしました。

2つのグループに分かれて、それぞれ探しました。

私は、先程の踏み跡を辿り、頂上へと回り込むルートを探りましたが、次第に下りになり、上部を探りましたが、再び背丈以上の青笹帯です。

これで、断念しました。

先程のピークまで30mほどまで登ったところが今回の到達点です。(It's my peak. ですよ。)標高は、90mでしょうか？

時間があるので、13時40分、中腹の玉津島神社に行き、レーションを食べました。



その後、島の稜線部を道路で横断して、ワラビも探って、島の小・中学校の建物も見えて、15時過ぎに港に戻ってきました。

帰りは、フェリーに乗って、18時10分、丸亀港に帰ってきました。

★今回はピークまで行けませんでした。登山中は雨に降られることなく行動できて、また、船の旅

も満喫できて、良かったです。

かつて、この島が舞台となった映画『なつかしき笛や太鼓』(昭和42年公開・夏木陽介、大空真弓)のポスターが貼っていました。



おもしろいモニュメントが色々ありました

